

大規模経営農家の農作業・生活時間の実態と労働改善策

高橋 みどり・吉田 富雄

(山形県立農業試験場)

The Actual Circumstances and the Improvement Plan of
Agricultural Work, Lifetime on large Farming
Midori TAKAHASHI and Tomio YOSIDA
(Yamagata Prefectural Agricultural Experiment Station)

1 はじめに

農業経営の大規模化は家族全体の労働量や農業労働の質に変化を与え、これが生活にも影響してくるので、労働の計画的配分や家族間調整が重要になる。従って、大規模経営農家の生活について生活時間構成や役割分担の視点で問題点や課題を検討し、それに応じた生活改善方策を提示することが目的である。

2 調査方法

- (調査対象) 羽黒町中川代の複合経営農家3戸
(調査項目) ・1年間をとおして農作業時間
・農繁期(稲収穫期)の生活時間
・営農目標、生活目標、余暇の充足度
(調査地域の概況)

調査対象の羽黒町泉地区は庄内平野の東南に位置し、羽黒山、月山の裾野にひらけた扇状地でゆるやかな平地を呈している。地区の総農家数は660戸で、うち専業48戸(7.3%)、第1種兼業は303戸(45.9%)、第2種兼業は309戸(46.8%)であり、専業と第1種兼業の割合が比較的多い。基幹作物は水稻であるが、他に野菜、果樹、畜産との複合経営に中核的農家を中心に意欲的に取り組んでいる。

雇用状況については、規模の大きい稲作農家では、稲の育苗、耕起、田植、稲刈に雇用を入れている。一方、野菜ではアスパラガス、メロン、赤かぶの収穫作業に大量の雇用を導入している。規模の大きい農家では保有労力の限界を感じており、複合経営をどう組み立てるかが大きな課題である。

3 調査結果及び考察

(1) 生活時間調査結果

1) A農家(水稻+野菜+枝物花木、2夫婦3世代・育児期)
農繁期(稲収穫期)の生活時間をみると、経営主の農業労働時間は10時間3分である。妻は農業労働時間が8時間39分、家事労働が4時間6分、父の農業労働時間は9時間26分である。家事は母が主担当であるが、妻は育児にかかると、妻の総労働時間は12時間45分と長い。

2) B農家(水稻+乳牛+野菜+山菜、2夫婦4世代・教育前期)

農繁期の経営主の農業労働時間は10時間26分、家事時間9分である。妻(会社員)の農業労働時間(農業就業日)は6時間10分、家事時間5時間10分で、父の農業労働時間は9時間30分である。家事は母が主担当であるが、妻は農

外勤務しているため、休日には家事が集中している。

3) C農家(水稻+野菜、2夫婦3世代・教育前期)
農繁期の生活時間をみると、経営主、妻、父ともに農業労働時間に無理がない。経営主と妻の労働時間のバランスもよく、家事時間も確保されている。家事は母が主担当であり、分担がうまくいっていると考えられる。しかし、家族保有労働量は現状がピークであり、あと数年で父母が高齢化し、家族保有労働量が減少すると考えられる。従って、その準備として、長期の農作業計画をたてておく必要がある。

(2) 農作業時間調査結果

1) 農作業時間分析、休日取得状況(A農家の場合)
A農家の月別農作業時間について作目ごとの構成比をみると、水稻作に労力のかかる5月と9月の間に、6~8月にアスパラガスとメロン、10~11月に赤かぶ、11~3月の枝物花木の収穫と出荷というように、年間の労働配分を考えてうまく組み合わせている。

しかし、ライフサイクル別労働配分指標に従い、1か月の家族保有労働量を平常期で500時間とみると、これ以上の労働時間が必要なのは5~8月と10月である。農繁期は650時間を限界とすると、5月と8月が基幹労力3人では不足する。

家族員それぞれの1日の農作業時間別日数をみると、全体的には3人とも10時間を越える日はほとんどない。しかし、休日の取得状況をみると、経営主は4、5、8月に1日も休日のないのが実態である。

農業は季節性が強いという特徴がある。農繁期には長時間労働日が続く、定期的な休日がとれないのが現状である。しかも、経営の複合化に伴っていわゆる「農繁期」が長期化している。身体的にも精神的にも緊張が続くことにより、疲労感を強く感じていると考えられる。地区で実施したアンケート調査結果では「農休日」を「是非必要」と答えた人が全体の57%と多い。調査対象農家でも「年中忙しい」という意識を強く持っており、改善を望んでいる。

2) 企画管理労働時間

A、B、C農家の農繁期の農業労働時間のうち企画管理労働時間の占める割合は大きく(3~25%)、農家の保有労働時間を設定する際、企画管理労働時間を考慮することは重要である。企画管理労働時間には「会議等の出席」「記帳」「作業打合せ」「計画」の時間が含まれる。

4 ライフサイクルに基づく長期の農業・生活設計

以上の結果から、大規模経営農家の生活改善方策として、家族労力や資金運用をふまえた長期生活設計を樹立し、経営設計に結びつけることが重要と考えられる。

表1 ライフサイクルに基づく長期の農業・生活設計表 (A農家)

平成(年)		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
家族	経営主(才)	③③	③④	③⑤	③⑥	③⑦	③⑧	③⑨	④①	④②	④③	④④	④⑤	④⑥	④⑦	④⑧	④⑨	⑤①	⑤②	
	妻	③②	③③	③④	③⑤	③⑥	③⑦	③⑧	③⑨	④①	④②	④③	④④	④⑤	④⑥	④⑦	④⑧	④⑨		
	父	⑤③	⑤④	⑤⑤	⑤⑥	⑤⑦	⑤⑧	⑤⑨	⑥①	⑥②	⑥③	⑥④	⑥⑤	⑥⑥	⑥⑦	⑥⑧	⑥⑨	⑦①	⑦②	
	母	50	⑤①	⑤②	⑤③	⑤④	⑤⑤	⑤⑥	⑤⑦	⑤⑧	⑤⑨	⑥①	⑥②	⑥③	⑥④	⑥⑤	⑥⑥	⑥⑦	⑥⑧	
	長女	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	就職結婚		
	長男	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	②①	②②	
	次女	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
家計費	(万円)																			
経営内容	露地メロン(面積a)	52 → 48 46 → 33 → 38 →																		
	赤かぶ	250 → 231 → 250 →																		
	枝物花木	85 → 79 76 → 57 → 65 →																		
	水稲	650 →																		
農作業保有労働時間	年間労働時間(時間)																			
	1日当農作業労働時間(時間/日)																			
	経営主	8(10) 8(10) →																		
	妻	6(8) 6(8) →																		
	父	8(10) 8(10) → 8(10) 6(8) → 0																		
農業所得・農家経済余剰	母	0 6(8) → 4(6) → 0																		
	後継者	8(10) →																		
還償	※農家経済余剰=農業所得-償還額-租税公課諸負担-実態家計費総額																			
	租税は10%, 償還額は0とした。()は家計費の臨時費																			

調査農家3戸について必要家計費と家族保有労働量及び所得の具体的なデータを示しながら、ライフスタイルに基づく長期の農業・生活設計総括表を提示した。

(1) 「家計費」の算出は「平成元年度山形農試新しい技術情報—家族構成別実態家計費診断システム—」一覧表による。

(2) 「経営内容」は経営管理モデル(AGRIPLAN—平成3年度山形農試経営部開発改良版)を用い、農家の家族構成、農業就業状況、経営状況、営農目標に応じて、以下の設定条件(①年次ごとの労働時間②経営規模③作付面積・頭数)のなかで最大所得を得るための作目の組み合わせを試算した。

(3) 「家族保有労働量」の算定方法は1ヵ月25日を労働

日とし、家事時間を含む労働時間を平常期は1日8時間、農繁期は1日10時間を限度とした。そのうち、家事、育児時間は夫婦主体の場合は主婦の、2夫婦の場合は主婦と嫁のそれぞれ2時間(育児期は嫁のみ4時間)とした。

(4) 「農業所得」はアグリプラン(経営管理モデル)を用いて試算した。

(5) 「農家経済余剰」とは、農家総収入—農家総支出を表す言葉であるが、ここでは農業所得—償還額—租税公課諸負担—実態家計費総額の金額を示した。従って実際には、農家の農外所得、年金等の他の収入と、経常家計費以外の臨時費、農業改善資金等の他の支出も合わせて算出しておくことが必要である。